【別紙２】

論文名：口蓋裂患者における口蓋裂言語の心理的受容過程（要約）

新潟大学大学院医歯学総合研究科
氏名　深井　真澄

口蓋裂言語が成人期以降も長期的に持続している口蓋裂患者において、患者の視点を取り入れた治療・管理のあり方を模索することを目的として、口蓋裂言語の心理的受容過程について質的検討を行った。口蓋裂言語が成人期以降も長期的に持続しており、言語管理および口腔管理のために通院を継続している患者 7 名を対象とし、半構造化面接による質的調査を行った。面接内容を逐語録化したものをデータとし、グラウンデッド・セオリー・アプローチにより分析した。口蓋裂患者が自らの言語の特異性の認識から受容に至るまで生成されたカテゴリーは、1）日常的な通院や治療、2）言語の特異性の認識はない、3）告知に対するショックと戸惑い、4）いじめ体験や親への反発、5）言語の特異性の認識と他者との違いへの葛藤、6）周囲の支えと新たな気付き、7）言語の特異性を受容する、8）自己への自信、9）医療者への信頼、10）言語治療への希望であった。口蓋裂言語が成人期以降も長期的に持続している口蓋裂患者において、医療者への信頼ならびに言語治療への希望の構築が、口蓋裂言語の心理的受容過程に影響していた。口唇裂・口蓋裂治療において、患者の視点を取り入れた治療・管理のための一側面として、口蓋裂言語の心理的受容過程を理解したうえで、包括的かつ継続的な心理的サポートの必要性が示された。